

五泉市地域クラブ  
安全管理マニュアル

五泉市教育委員会

## 1 活動前の確認事項

- (1)緊急時の連絡先の把握
- (2)参加者の健康状態の把握
- (3)個人情報の管理
- (4)スポーツ安全保険等の加入
- (5)施設の使用及び管理
- (6)その他

## 2 緊急事態発生時の対応

- (1)けがや病気になったときの対応
- (2)熱中症予防
- (3)落雷事故防止
- (4)災害の発生時の対応
- (5)不審者が侵入した時の対応

### <参考資料>

- ・こんなときは、すぐに救急車を呼びましょう！
- ・けが、急病発生時
- ・頭頸部外傷発生の場合
- ・熱中症発生の場合
- ・落雷の場合
- ・地震発生の場合
- ・火災発生の場合
- ・竜巻・突風の場合
- ・不審者侵入の場合
- ・食中毒発生の場合
- ・物が壊れたときの対応
- ・事故等報告書
- ・AED 設置状況、雷対応避難場所状況

## 1 活動前の確認事項

### (1)緊急時の連絡先の把握

- ・参加者のけがや病気等の緊急事態が発生した場合、速やかに保護者に連絡することができるように、参加者の緊急連絡先を把握し、適切に管理をする。また、急な災害や指導者自身のけがや病気等に備え、関係者、関係機関の緊急時の連絡先を確認しておく。

### (2)参加者の健康状態の把握

- ・参加者の健康状態やアレルギー等で、特に配慮を必要とすることがあるか保護者等に情報提供を求め、把握しておく。
- ・特別な支援を必要とする参加者が活動する場合、どのような場面でどのような支援が必要なのか具体的に検討し、指導者間で共通理解をしておく。

### (3)個人情報の管理

- ・緊急連絡先や参加者の健康状態等は個人情報になるので、目的以外に使用することがないよう、適切に取り扱う。また、関係者での共有については、保護者の承諾を取っておく。

### (4)スポーツ安全保険等の加入

- ・地域クラブ活動は、全員が保険に加入する。加入手続きは五泉市教育委員会(以下「教育委員会」という。)又は認定団体が行う。

### (5)施設の使用及び確認

- ・都合により施設の使用を中止する場合は、各施設の管理規則等に従い手続きを行う。  
ただし、やむを得ず当日の使用を中止する場合は、直接施設管理者へ連絡をする。
- ・鍵の開閉が必要な施設を使用する場合は、地域クラブが責任をもって鍵の借用と返却を行う。
- ・救急セットの用意、AEDの場所を確認し、必要なときすぐに使用できるようにしておく。
- ・想定される災害に応じた避難経路や対応の仕方について指導者と参加者で共有しておく。

### (6)その他

- ・気象情報によって、当日の天候状況の把握に努め、参加者が安全に活動できるように適切な対策を講じる。
- ・休日に活動する際は、けがや病気の発生に備え、五泉市の休日当番医について確認しておく。

## 2 緊急事態発生時の対応

### (1)けがや病気になったときの対応

#### ①初期対応

- ・近くの指導者や関係者がすぐに対応し、応急手当等を実施する。周囲の参加者が血液や吐瀉物に触れないようにする。応急手当は、傷口の消毒、止血、患部の冷却等にとどめ、それ以上の対応が必要な場合は、速やかに保護者に連絡をし、医療機関への受診を勧める。
- ・首から上及び脊椎負傷の場合は特に注意する。意識不明の場合は、安静を第一にし、移動は避ける。
- ・緊急を要すると判断した場合は、直ちに心肺蘇生法等を行うとともに、躊躇なく「119番」に通報し、救急車を要請する。救急車が到着するまで、心肺蘇生法等の救命措置を続ける。「見ているだけ」が一番危険である。
- ・事故発生のおよその状況を把握(発生時刻、発生状況、状況の変化等を記録)しておき、医師や救急隊員等に説明できるようにする。

#### ②軽度の場合

- ・擦り傷など活動に支障がない場合は、経過観察の上、必要に応じて保護者に連絡をする。
- ・意識はあるが痛みが続く場合は、保護者へ連絡をし、医療機関への受診を勧める。受診の結果について確認をする。

#### ③重度の場合

- ・意識がない、出血が止まらない等の場合は、救急車を要請し、保護者に連絡をする。救急車へ同乗、他の参加者への対応を分担する。
- ・意識不明の場合は、心肺蘇生法を必要に応じて行うとともに、AEDを活用する。

#### ④救急車の必要性

- ・「意識がなくもうろうとしている(意識障害)」「けいれんが止まらない、けいれんが止まっても意識が戻らない」「異物を飲み込んで意識がない」「食後や虫等に刺され、じんましんが出て顔色が悪い(アレルギーの可能性)」「広範囲、痛みのひどいやけどを負った」「交通事故にあった」等のときは、すぐに救急車を呼ぶ。

#### ⑤その他

- ・救急車を要請した場合や、大きなけが・事故が起きた場合は、教育委員会へ直ちに連絡をする。

・事故等が発生した場合(軽度の場合を除く)指導者は、別紙「事故等報告書」により発生状況等を教育委員会に報告する。

## (2)熱中症予防

熱中症予防のための運動指針を参考に、暑さ指数(WBGT)、参加者個々の体調等を踏まえ、活動時間帯、活動量等に十分に配慮をする。熱中症の危険性が高いと判断したときは、活動を中止する。

※暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度):Wet Bulb Globe Temperature)は熱中症予防を目的とする指標で、①湿度②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境③気温の3つを反映して算出した数値。

詳細は、環境省の「熱中症予防情報サイト」を参照

### 【熱中症予防運動指針】

暑さ指数(℃)	気温(参考)	熱中症予防のための運動指針	
危険 31℃以上	35℃以上	運動は原則中止	特別な場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合は中止すべき。
嚴重注意 28℃以上 31℃未満	31℃～ 35℃	激しい運動は中止	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩をとり、水分・塩分を補給する。暑さに弱い人は運動の軽減または中止。
警戒 25℃以上 28℃未満	28℃～ 31℃	積極的に休憩	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり、適宜水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
注意 21℃以上 25℃未満	24℃～ 28℃	積極的に水分補給	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
ほぼ安全 21℃未満	24℃未満	適宜水分補給	通常は熱中症の危険が少ないが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどでは、この条件でも熱中症が発生するので注意する。

「熱中症を防ごう」日本スポーツ協会より一部抜粋

#### ①重症度Ⅰ度(軽症)

- ・「意識がはっきりしている」「手足がしびれる」「めまい、立ち眩みがある」「筋肉のこむら返りがある」等の症状があるときは、涼しい場所へ避難して服を緩め、体を冷やし、水分・塩分を補給する。誰かがついて見守り、改善の見込みがなければ医療機関を受診する。

#### ②重症度Ⅱ度(中等症)

- ・「吐き気がする」「吐く」「頭ががががする」「体がだるい」「意識が何となくおかしい」等の症状があるときは、速やかに医療機関を受診する。

#### ③重症度Ⅲ度(重症)

- ・「意識がない」「呼びかけに対して返事がない」「体がひきつる(けいれん)」「まっすぐ歩けない、走れない」「体が熱い」等の症状があるときは、救急車を呼び、到着までの間、積極的に冷却する。

### (3)落雷事故防止

#### ①雷に対する基礎知識

- ・雷は積乱雲の位置次第で、海面、平野、山岳などの場所を選ばず落ちる。また、周囲よりも高いものに落ちやすいという特徴がある。
- ・グラウンド、平地、山頂、尾根等の周囲の開けた場所にいると、積乱雲から直接人体に落雷(直撃雷)することがあり、その場合、約8割の人が命を落とすとされている。また、落雷を受けた樹木等のそばに人がいると、その樹木から人体へ雷が飛び移ることがある(側撃雷)。木の下で雨宿りなどをしていて死傷する事故は、ほとんどが側撃雷によるものである。
- ・遠くで雷の音がしたら既に危険な状況であり、いつ落雷してもおかしくはない。
- ・厚い黒雲が近づいてきた際には、雷雲の接近を意識する必要がある。
- ・雷鳴はかすかでも危険信号であり、落雷を受ける危険性があるため、すぐに安全な場所に避難すること。
- ・人体は同じ高さの金属像と同様に落雷を誘因するものであり、たとえ身体に付けた金属を外したり、ゴム長靴やレインコート等の絶縁物を身に付けたりしていても、落雷を阻止する効果はない。

#### ②落雷に対する対応

- ・落雷、突風等が想定される場合は、定期的に気象情報を入手し、絶えず雷鳴や空模様に注意する。
- ・「雷注意報」発令の有無にかかわらず、雷光や雷鳴があったり、雷雲が近づく様子があったりする場合は、直ちに活動を中断する。

- ・雷鳴が遠くかすかに聞こえる場合も、落雷の危険性があるので、ためらうことなく活動を中断する。
- ・鉄筋コンクリート建築、自動車、バス、列車の内部など、比較的安全な場所へ速やかに避難する。テントやトタン屋根の仮小屋は危険である。木造建築の内部も基本的に安全だが、全ての電気器具、天井・壁から1m以上離れればさらに安全である。
- ・近くに避難する場所がない場合は、低い場所を探してしゃがむなど、できるだけ姿勢を低くするとともに、地面との接地面を可能な限り少なくする。
- ・自転車に乗っている場合は、すぐに降りて姿勢を低くして、安全な場所に避難する。

#### (4)災害の発生時の対応

##### ①火災発生

- ・火災の程度、火元を確認する。
- ・参加者を落ち着かせ、安全確保に努め、避難誘導をする。避難の際は、身を低くし、ハンカチを鼻、口に当て、落ち着いた行動をするように促す。「おはしも」  
お…押さない は…走らない し…しゃべらない も…戻らない
- ・人数確認をするとともに、参加者の状況を把握する。(けが人の有無等)
- ・保護者に迎えを要請し、参加者を保護者に引き渡す。

##### ②地震発生時

- ・安全を確保し、揺れが収まるのを待つ。
- ・出口の確保、火元の確認をし、人数確認をするとともに、参加者の状況を把握する。(けが人の有無等)
- ・情報の入手に努め、状況を把握する。地震が収まり、活動場所周辺の安全が確認されたら、活動を再開する。
- ・震度5弱以上の場合は、保護者に迎えを要請し、参加者を保護者に引き渡す。

#### (5)不審者が侵入した時の対応

- ・参加者の安全確保を最優先し、参加者の動向を把握しながら安全な場所に避難させる。
- ・不審者からできるだけ離れ、自分自身の安全を確保する。
- ・やむを得ず対応しなければならないときは、可能な限り複数人で対応する。早めに110番通報をする。
- ・保護者に迎えを要請し、参加者を保護者に引き渡す。

こんなときは、すぐに救急車を呼びましょう！  
～重大な病気やけがの可能性が～

頭

- 頭を痛がって、けいれんがある
- 頭を強くぶつけて、出血が止まらない、意識がない

顔

- くちびるの色が紫色で、呼吸が弱い

胸

- 激しい咳やゼーゼーして呼吸が苦しく、顔色が悪い

おなか

- 激しい下痢や嘔吐で水分がとれず、食欲がなく、意識がはっきりしない
- 激しいおなかの痛みで苦しがり、嘔吐が止まらない
- 血便が出た

手足

- 手足が硬直している

<意識障害> 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)  
<けいれん> けいれんが止まらない けいれんが止まっても意識がもどらない  
<飲み込み> 変なものを飲み込んで意識がない  
<じんましん> 虫にさされて、全身にじんましんが出て、顔色が悪くなった  
<やけど> 痛みのひどいやけど 広範囲のやけど  
<事故> 交通事故にあった 水におぼれている 高所から落ちた  
※食事の後や虫等に刺された後の様子の急変は、アレルギーによるショック状態も疑われます

救急搬送依頼の際の連絡内容

「119番通報」→「救急です」と伝える→来てほしい場所を伝える→「誰が(中学〇年)、どのようにして、どうなったか」伝える→連絡者の名前と携帯番号等連絡先を伝える

# 緊急時の対応【けが、急病発生時】



けが、急病の発生

## 【対応のポイント】

- 参加者の安全確保・生命維持を優先
- 冷静で的確な判断
- 適切な対応と迅速正確な連絡
- 複数での対応
- 適切な対応と迅速正確な連絡

## 【事前確認】

- 救急用具の点検
- AEDの所在の確認
- 連絡手段の確認

### 発見者

- ・傷病者の状況の確認
- ・直ちに応急措置
- ・周囲の大人に協力要請や指示（複数人で対応）
- ・けが、病気の状態や程度により、緊急性及び医療機関受診の必要性の有無を判断

### 他の生徒への対応

- ・現場付近からの移動
- ・人数の把握
- ・配慮を要する生徒への対応

- ①安全確認後、活動再開
- ②安全確認後、保護者連絡、引き渡し
- ※緊急連絡先必携（取り扱い注意）

重症（即時医療機関受診の必要あり）

119番通報

救急車へ同乗

医療機関

診断結果を確認し、保護者へ連絡

保護者へ連絡  
※緊急連絡先必携

受診必要あり

保護者へ連絡

保護者へ引き渡し  
医療機関受診

受診結果の確認

受診必要なし

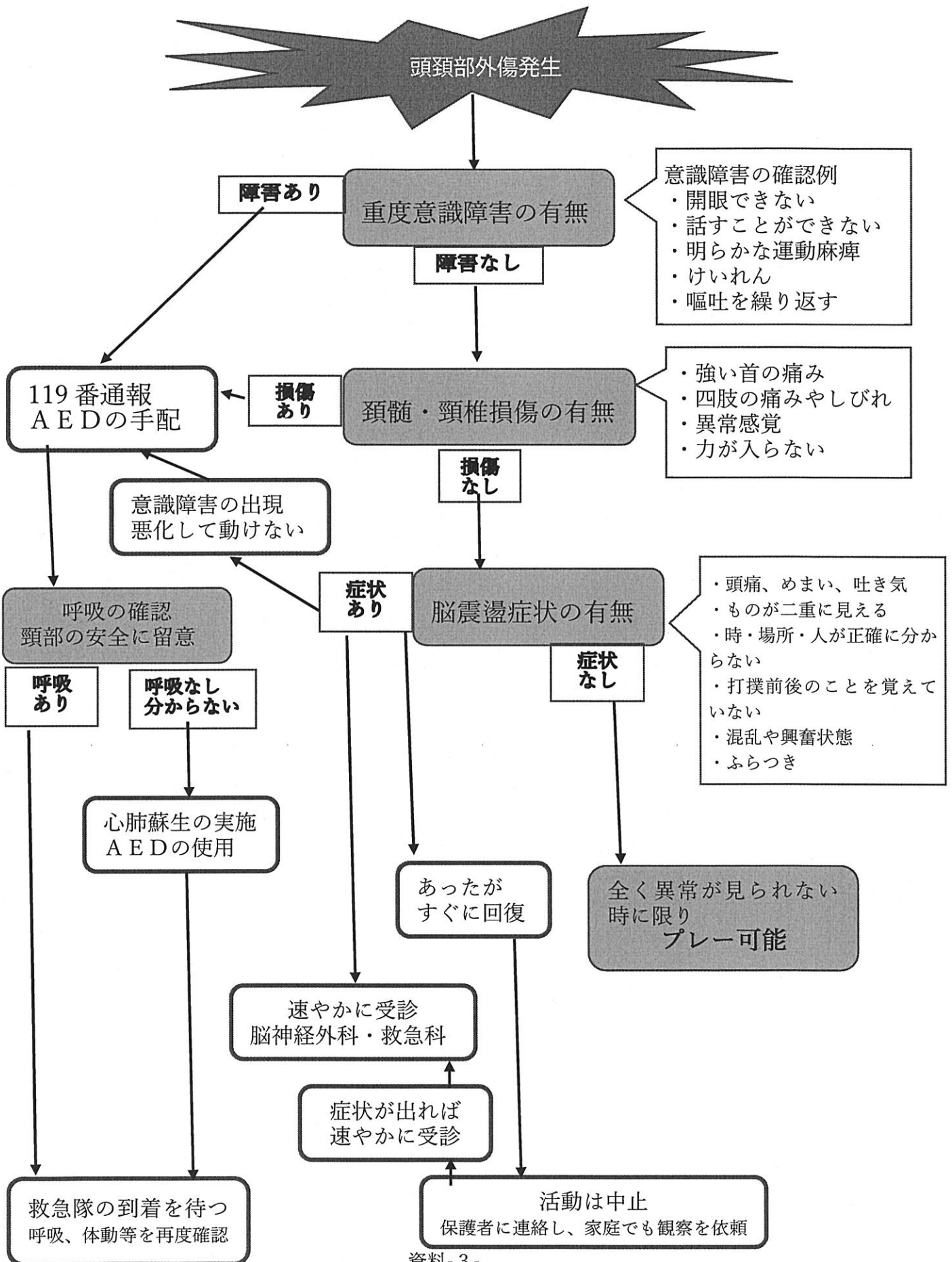
保護者へ連絡  
活動継続を相談  
経過観察

保護者へ引き渡し

事故発生状況の記録、報告（事故報告書の提出）

- ※事故発生時には、発生時刻、発生状況、応急処置の有無とその内容を時間経過を追って記録すること。
- ※事故報告書を作成し、五泉市教育委員会に提出すること。
- ※設備等により傷害が発生した場合、直ちに使用を停止し、五泉市教育委員会に報告。

# 緊急時の対応【頭頸部外傷発生の場合】



# 緊急時の対応【熱中症発生の場合】

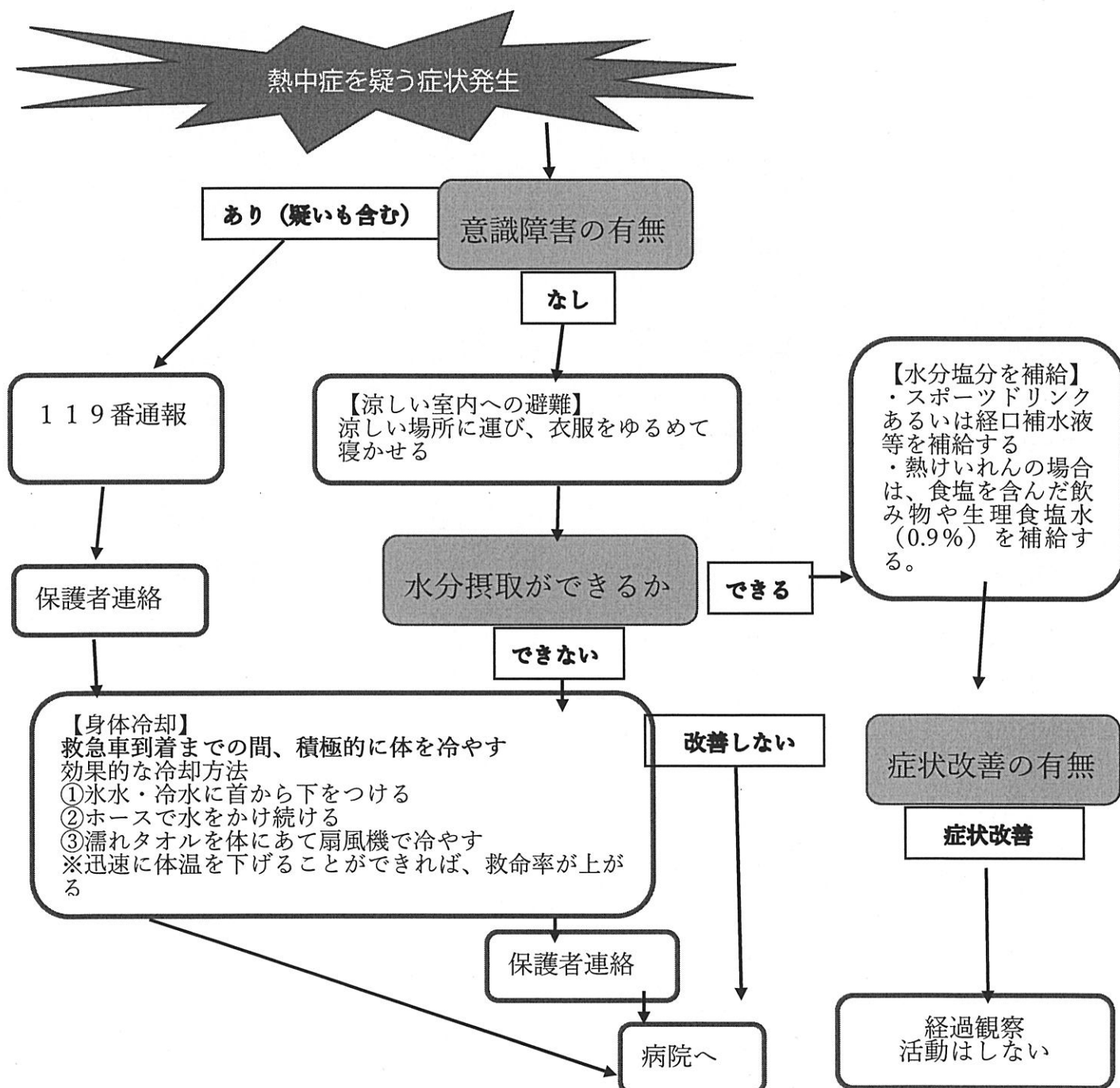
## 【事前の対策】

- ・こまめな水分補給、休憩 ・適度な塩分補給 ・参加者の体調把握 ・気温、湿度の把握
- ・環境の整備（風通し、日陰で休める場所等） ・補給水、氷等の用意

## 【熱中症を疑う症状】

- ・めまい、失神 ・四肢の筋や腹筋がつり、筋肉痛が起こる ・全身倦怠感、脱力感、めまい、吐き気、嘔吐、頭痛等が起きる ・脚がもつれる、ふらつく、転倒する、突然座り込む、立ち上がれない 等

熱中症を疑う症状発生



# 緊急時の対応【落雷の場合】

## 【事前の対策】

- ・事前に気象情報を確認する（雷注意報の段階で細心の注意を払う） ・緊急時の退避場所の確保
- ・参加者に対する事前の指導（雷鳴、雷光、天候の急変があったときに素早く避難する意識をもたせる）

## 【気象情報の確認方法（目視・音での確認）】

- ・積乱雲がみるみる大きくなる ・黒い雲が近づき、暗くなる ・急に冷たい風が吹く ・雷光が見える、雷鳴が聞こえる

雷雲発生・雷鳴・雷光確認

屋外での活動を止めて、直ちに屋内の避難場所に避難する

### 【安全な避難場所がある】

- ・自動車等の乗り物の内部
- ・鉄筋コンクリート製の建物の内部
- ・避雷設備の施された建物の内部
- ・本格的な木造建築物の内部



### 【危険な場所】

- ・開けた広い空間（グラウンドやテニスコート等）
- ・避雷設備のないあずま屋
- ・テントや掘っ建て小屋
- ・木のそば（木は電気を通しにくい  
ため側撃が起こりやすく距離をとっても危険）

### 【近くに安全な建物や乗り物がない場合】

- ・電線や鉄塔の高さ5 m以上の高い建物の付近。ただし4 m以上離れる

避難できず、雷に打たれた

予想される症状  
「心配停止」「やけど」「意識障害」「鼓膜が破れる」等

119番通報

保護者へ連絡

### 【心肺停止】

- ・AED用意を依頼し、直ちに心肺蘇生の行動を起こす。

### 【やけど】

- ・急いで冷たい水、水道水を注いで痛みがとれるまで冷やす。
- ・衣類を脱がさないで、そのまま衣類の上から冷水をかける。

### 【意識障害等】

- ・安全な場所に移動させるとともに、状態を注視する。
- ・痛みを伴うときは、冷やすなどの対応をする。

# 緊急時の対応【地震発生の場合】

緊急地震速報を確認した場合

活動の中止 避難経路の確保 落下物に注意し、頭部を保護する

地震の発生

一次避難

揺れがおさまるのを待つ:参加者を落ち着かせ、安全を確保する  
状況の確認(けが人の有無、建物の被害) 出口の確保 火元の確認 等

二次避難

統括・指示

情報入手

参加者を落ち着かせる  
避難誘導  
安全確保

避難場所  
避難経路の指示

・速報、警報の確認  
・最新の情報を入手TV、ラジオ、インターネット、市広報放送等

点呼

確認  
逃げ遅れた参加者の確認

施設職員と連携

震度5弱以上  
保護者に連絡し、迎えを要請(待機中の参加者の安全確保)

迎えがあった参加者は保護者に引き渡し

各種警報・避難指示

あり

なし

津波警報

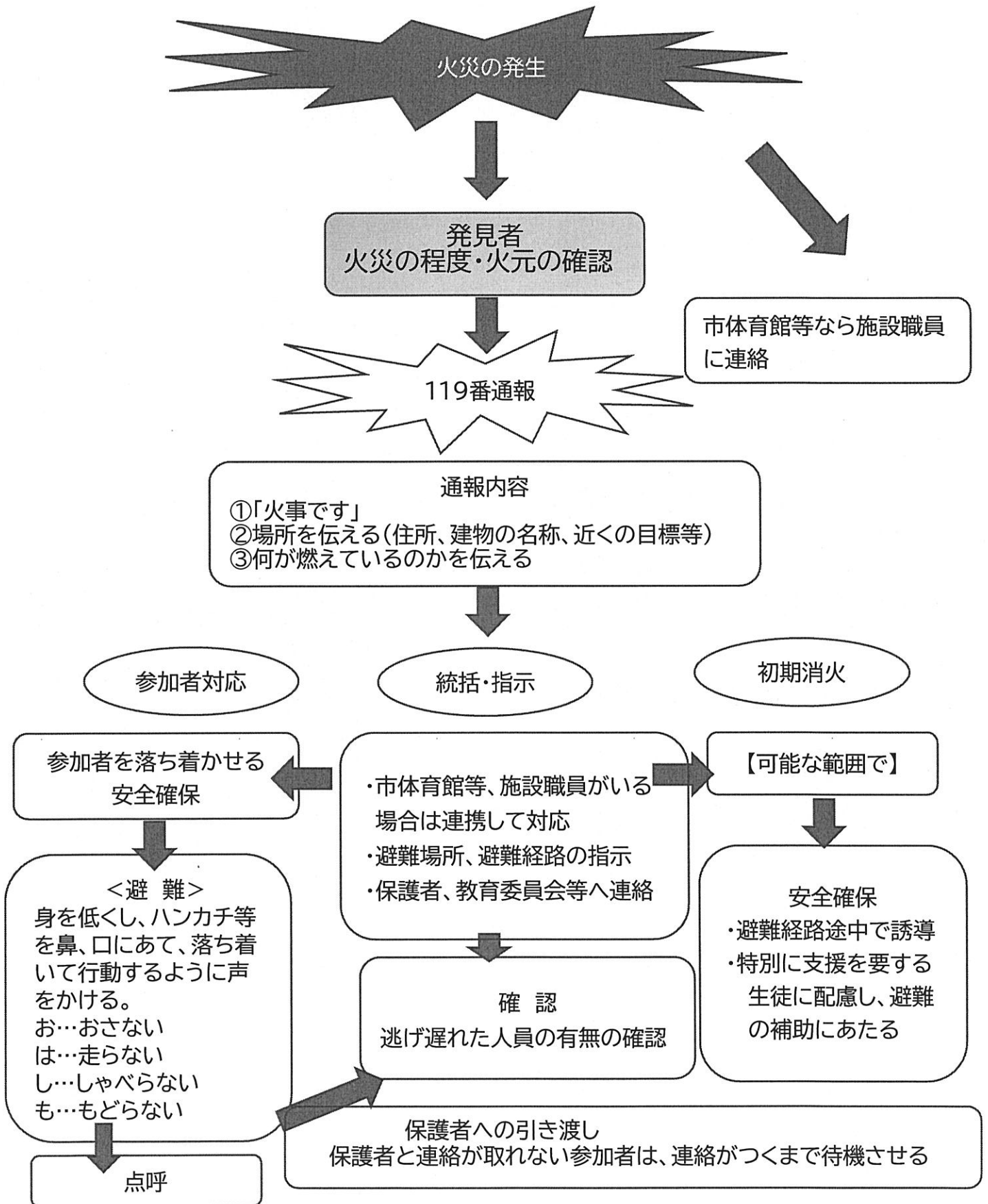
まず垂直方向に避難

警報解除後に、迎えがあった参加者は保護者に引き渡す

・地震がおさまったこと及び活動場所周辺の安全を確認して活動再開  
・帰宅経路の安全確認者の安全確認  
以後は通常の活動

保護者への引き渡し(保護者に連絡が取れない場合は、取れるまで待機させる)

# 緊急時の対応【火災発生の場合】



## 緊急時の対応【竜巻・突風の場合】

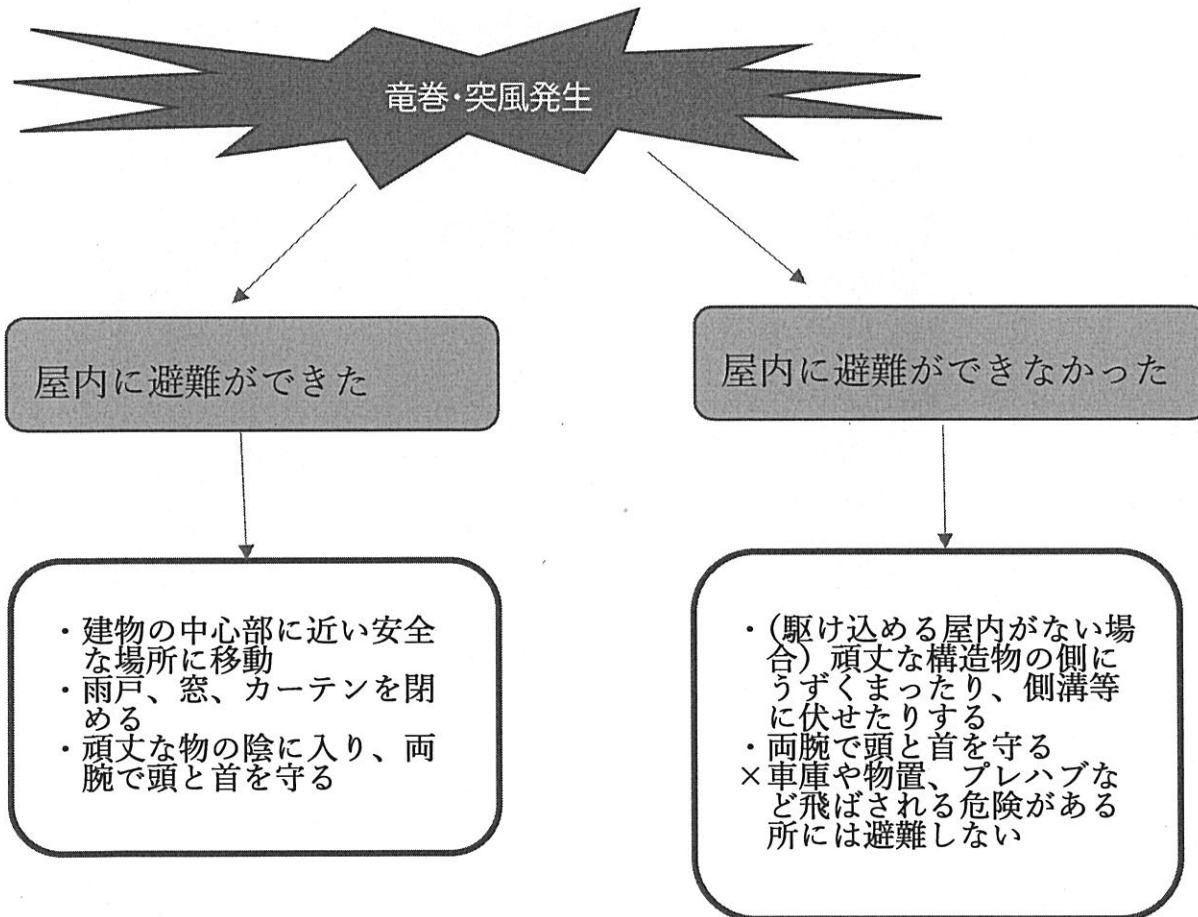
### 【事前の対策】

- ・事前に気象情報を確認する（特に竜巻注意情報について）
- ・緊急時の退避場所の確保
- ・参加者に対する事前の指導（発生後、素早く避難する意識をもたせる）

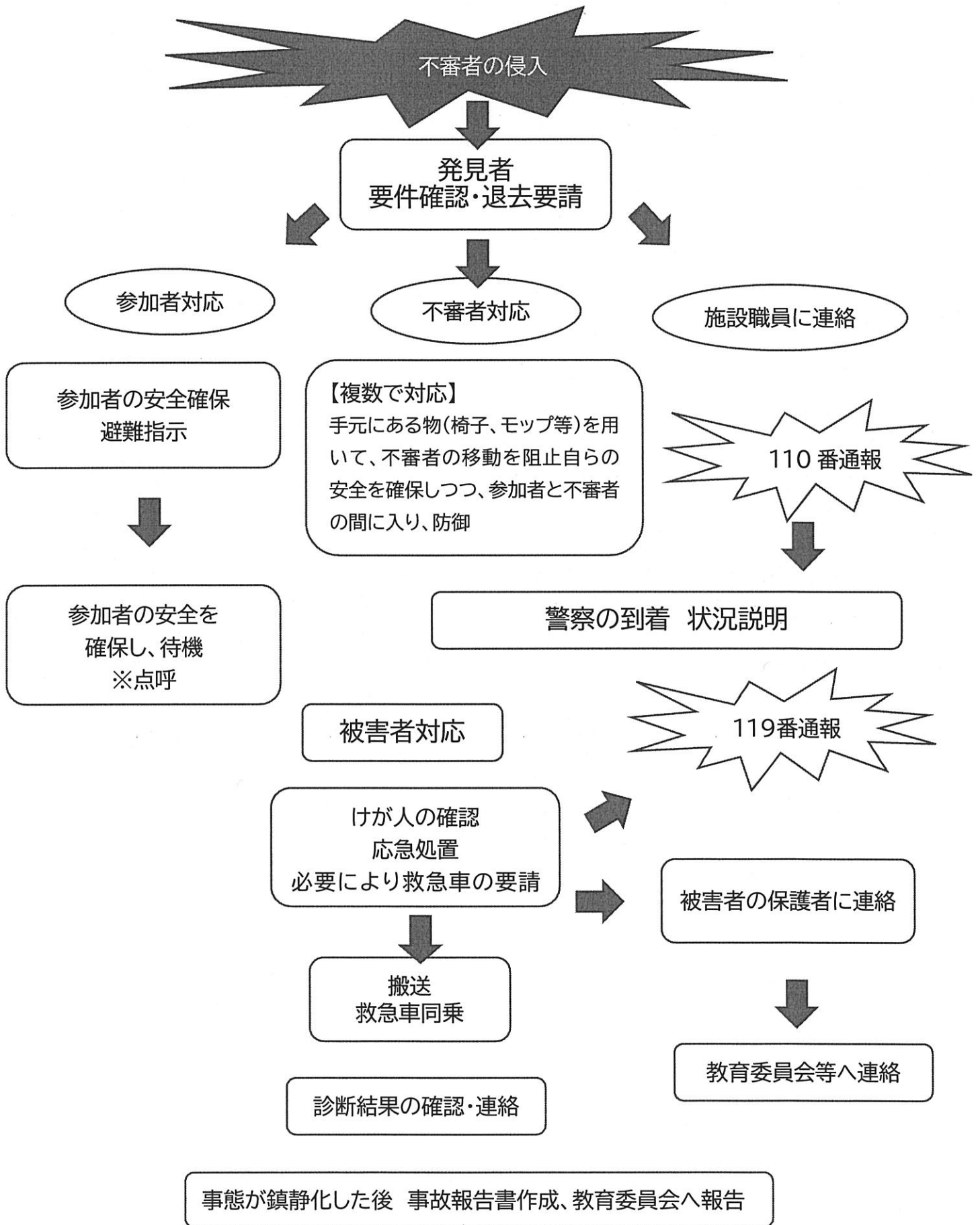
### 【竜巻・突風発生兆しの確認】

- ・低く黒い雲（積乱雲）が接近
- ・雷鳴や雷光が見える
- ・急に冷たい風が吹く
- ・強い雨、風
- ・ひょうの落下
- ・土煙が近づいてくる
- ・「ゴーツ」という音がする
- ・耳に異常を感じる

兆しを確認したら、直ちに屋内の避難場所に避難する



# 緊急時の対応【不審者侵入の場合】



# 食品摂取時の対応【食中毒発生時】

## 【対応のポイント】

- 参加者の安全確保・生命維持を優先
- 冷静で的確な判断
- 適切な対応と迅速正確な連絡
- 複数での対応
- 適切な対応と迅速正確な連絡

## 【事前確認】

- 救急用具の点検
- AEDの所在の確認
- 連絡手段の確認
- 健康状態の把握
- 気象や会場の状況把握

## 【調理者への事前依頼】

- 手指の手洗い、消毒
- 器や調理用具の衛生
- 汁気をよくとり詰める
- 冷めてから収納する
- 保冷用具の活用

## <当日の対応>

・温度管理の徹底（保冷バッグ等で食品の温度上昇を抑える）

・保管場所を選ぶ（直射日光や高温、多湿を避ける）

・衛生管理（容器の密閉性の確認、手洗い、消毒の徹底）

## 飲料、食品の摂取

食中毒症状の発生（嘔吐等の発生）

### 現場の対応

- ・周囲の人を移動
- ・吐瀉物の処理、消毒

### 状況の判断

- ・活動継続か否か
- ・帰宅後の体調観察の指示

### 本人への対応（重症）

- ・激しい下痢、嘔吐
- ・意識がはっきりしない

119番通報

救急車へ同乗

医療機関

診断結果を確認し、保護者へ連絡

保護者へ連絡

保護者へ連絡

保護者へ引き渡し  
医療機関受診

受診結果の確認  
※緊急連絡先必携

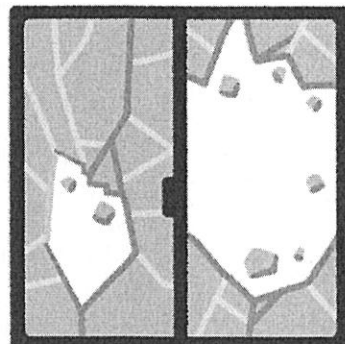
事故発生状況の記録、報告（事故報告書の提出）

※事故発生時には、発生時刻、発生状況、応急処置の有無とその内容を時間経過を追って記録すること。  
※事故報告書を作成し、五泉市教育委員会に提出すること。

## 物が壊れたときの対応

例えば、地域クラブ活動中に、以下のようなことが起きたとします。

- ・学校から借用した物品が壊れた
- ・市の体育館や学校の施設が使用中に壊れた
- ・施設のガラス窓が割れた
- ・トイレが破損したり水が出なくなったりした
- ・床や壁が壊れた



### ○安全の確保

まずは参加者がけがをしないよう、落ち着いて安全な場所まで誘導をお願いします。指導者の方もけがをしないようご注意ください。

### ○施設内の職員、施設管理者への連絡

市体育館、その他スポーツ施設で活用している場合も同様に、その施設内にいる職員または、管理担当者に報告をお願いします。

### ○状況の記録

発生時刻、発生状況、状況の変化などを活動日誌等に記録しておきましょう。必ず携帯電話等で現場写真の撮影記録をお願いします。後に、保険の請求で、物損の程度を示すための情報として必要になることがあります。

### ○関係機関への連絡

物が壊れた時には教育委員会への連絡もお願いします。その後の対応を確認するため、発生日時などの情報を聞かせていただきます。

スポーツ安全保険が適応される条件として「事前の施設使用に関する指導が行われていたこと」があげられています。



## AED設置状況、雷対応避難場所状況

練習会場	AED	雷対応避難場所
総合会館 大ホール	・警備室前	建物内
総合会館 中ホール	・大ホール入口	
総合会館 各技場	・事務室	
総合会館 野球練習場	・トレーニング室	
さくらアリーナ	・事務室 ・多目的ケアルーム ・3階展望コーナー	建物内
村松武道館	・事務室	建物内
村松野球場	・隣接男子トイレ脇	雷対応要注意 自動車内またはバックネット裏控え所
西公園野球場	・四阿脇	雷対応要注意 自動車内または近隣住宅に避難
五箇スポーツ会館	・会館内	会館内
栗島テニスコート	・総合会館大ホール屋外、公園に面するシャッター脇	総合会館屋内